

鳥獣被害対策の取り組み

鳥獣対策課

1 取組状況

(1) 野生鳥獣に強い集落づくりの推進

○野生鳥獣に強い集落づくり

- ・21集落(平成24年度11集落+平成25年度10集落)を指定
集落全員学習会・集落環境点検等の実施、住民施工による防護柵の設置
- ・鳥獣被害対策専門員(12名)の巡回指導及び講習会実施等による管内全域への波及

(2) 被害集落の住民と一体となった集落ぐるみの捕獲推進

○集落ぐるみの捕獲推進

- ・わなの開発:平成25年度高知県新事業分野開拓者認定制度 認定製品
- ・くくりわなの配付:24市町村539集落に5,000個配付(H25.10.13~12.19)
- ・わな捕獲講習会の開催:県内39ヶ所で実施

(3) 狩猟者の確保と捕獲効率の向上によるシカ3万頭捕獲対策

○新規狩猟者の確保

- ・狩猟免許試験の実施:試験11会場(うち出前試験4会場)の実施による狩猟者堀越し
- ・狩猟フォーラムの開催:1回(参加者数154名)

○わな製作技術講習による捕獲効率の向上

- ・わな製作技術講習会:県内10ヶ所(参加者数294名)
- ・止めさし・解体講習:2回(参加者数64名)

(4) 捕獲鳥獣の有効活用

○消費拡大の推進

- ・加工・販売・流通実態調査:加工施設(50件) 食肉店(352件)
- ・料理提供店舗での加工販売に関する意向調査:560件(地域活動センター含む)
- ・ジビエコンテストの開催:応募点数71点
- ・ジビエフェアの実施:よさこいジビエガイドブック 20,000冊配付

【具体的な成果】

- ◆シカ捕獲数(集計中) 約18,000頭(H24:15,845頭 H23:13,468頭)
うち配付くくりわな(シカ156頭、イノシシ76頭)
- ◆狩猟免許合格者数 425名(うち出前試験合格者123名)(H24:432名)
- ◆捕獲シカ有効活用頭数 約250頭(H24:215頭)
- ◆ジビエフェア参加者数 1,050名(20店舗)

課 題

- ◆被害集落の住民と一体となった捕獲推進による鳥獣被害の農林業被害の軽減
- ◆狩猟者の確保と狩猟効率の向上
- ◆重点集落の育成と鳥獣被害対策専門員活動の充実強化による県内全域への波及
- ◆捕獲鳥獣の有効活用に向けた、安定供給体制づくりと消費の拡大

2 平成26年度の取り組み

(1) 野生鳥獣に強い集落づくり

○野生鳥獣に強い集落づくりの推進

新規重点10集落を選定し、集落全員学習会、集落環境点検等の実施によりモデルとして育成
県内全域に波及するため、鳥獣被害対策専門員12名による巡回指導集落を重点的に育成

- ・重点集落数 H26 新規10集落
- ・重点集落の波及 鳥獣被害対策専門員による県内100集落以上の育成

【成果目標】重点集落及び鳥獣被害対策専門員の巡回指導集落における農林業被害の軽減

(2) 捕獲対策の強化

○集落ぐるみの捕獲推進

鳥獣被害のある集落に”くくりわな”を配付し、集落ぐるみの捕獲体制の確立を目指す。

- ・わな配付数 4,000個(配付集落:約500集落)
- ・わな捕獲講習会の開催 わな配付に合わせ、県内50ヵ所で講習会開催

【成果目標】わな配布集落における農林業被害の軽減、集落ぐるみの捕獲体制の確立

○新規狩猟者の確保と捕獲技術の向上

わな配付集落での掘り起こし、出前試験・狩猟フォーラムによる狩猟者の掘り起こし

わな猟シカ捕獲マニュアルの作成、捕獲技術講習会開催による捕獲効率の向上

- ・狩猟免許試験実施回数 16回(うち出前試験4回)
- ・シカ捕獲マニュアル作成 5,000部
- ・捕獲技術講習会 2回

【成果目標】シカ捕獲3万頭の捕獲体制の確立

(3) 捕獲鳥獣の有効活用

○消費拡大の推進

ジビエフェア参加店舗の拡大

- ・ジビエ料理研究会によるメニューの研究・開発、人材育成
- ・ジビエコンテスト・講演会の実施 H27.1月末
- ・県内全域でのよさこいジビエフェア H27.2月の1月間
1,500名(30店舗)

【成果目標】ジビエの消費拡大

(4) シカ捕獲頭数の見直し

○抜本的な鳥獣被害対策の強化(国の動向)

- ・10年後(平成35年)までにシカ、イノシシの生息頭数の半減を目標
- ・生息状況等の緊急調査の実施、生息頭数の推計及び捕獲目標の目安の提示
- ・鳥獣保護法改正による県の鳥獣保護事業計画及び特定鳥獣保護管理計画の改定

